

雷の子

カトリック町田教会
町田市巾町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



主よ、思い起こして下さい、
昔から変わらぬ
あなたの憐れみと慈しみを。
詩編25.6

木の年輪・人の年輪

主任司祭 小池 亮太

前日の吹雪で積もった新雪が美しい、静まりかえった二月末の上高地を歩いていると、雲の切れ間から穂高連峰が姿を現しました。「あそこが奥穂高で、あの尖っているのがロバの耳、あっちが西穂高」と、この旅に誘ってくれた藤が丘教会の主任司祭が説明をしてくれました。その横で、旅の段取りをしてくれた藤が丘教会の信者たちは「昨日はどうなるかと思ったけれ

ど、晴れてきて良かった」「やっぱり上高地は、山が見えなきゃねえ」と、話していました。彼らと、前日に泊まった温泉で話していた時、木の「年輪」の話になりました。それは、若い頃、仕事で建材用の木材を買い付けに北米に行き、山々を歩いて回ったという人の話の中でした。木は生き物ですから、無数の細胞によって形成されてい

ます。春から夏にかけての成長が速い時期には、柔らかい細胞ができ、色が淡く厚い層になります。成長が遅くなる秋から冬にかけては、硬い細胞ができ、色が濃く薄い層になります。このように季節によって成長した細胞が交互に層になり、木の横断面に輪として現われるものが「年輪」です。同じ太さでも、厳しい環境の中でゆっくり成長して「年輪」の詰まった木の方が、木材として強度があり、見て美しく、ねじれなどの狂いも少ないのだそうです。また、ある程度太くなった木の「年輪」は、「外側の色の淡い年輪の部分」と「内側の色の濃い年輪の部分」に分かれます。外側の色の淡い部分は、樹液を流したり養分を貯める機能を持った細胞でできています。内側は、細胞としての機能は停止され、取り残された樹液などが色素や樹脂に変化して「年輪」の中に溜まり、色が濃くなります。この部分は外側に比べて強度があり、腐りにくいそうです。比喩的に「技や芸などを積み重ねてゆくこと」を、「年輪を重ねる」と言います。それは、飛躍的に伸びる時期と伸び悩む時期の繰り返しによって技や芸は極められてゆくからでしょう。私たちも

日々の生活の中で、何をやっても上手くいかない時や、何もしてないのに物事が上手く運ぶ時を体験しながら成長していきます。ですから、すべての人は「年輪」を自分の中に重ねていると言えます。厳しい状況の中にあつて、自分の成長を感じられない時にも、その人の中には詰まった「年輪」が重ねられていきます。そして、そのような日々が、強く、美しく、歪みの少ない人へと成長させるはずなんです。また、長い年月をかけて重ねた人の「年輪」の内側では、その人の過去の喜びや悲しみが様々に変化し、信仰がそこに色をつけ、その人を支える

よろしくお願い致します

運営委員会議長 林 佳香

元気だけが取り柄、統率力もない私が議長をお引き受けして良いものか……でも、小さい頃から学校や教会で導いて下さった方々のお顔が浮かび、感謝の気持ちや、私の力が足りないところは、運営委員のメンバーや皆さまが助けて下さる！と信じて、エイッとお引き受けしてしまいました。未熟な私ですので、皆さま、お力添えをどうぞよろしくお願い致します。抱負を……とのこと。「よく聞く」ことを心がけたいと

強さになっているでしょう。「年輪」が詰まった、強く、美しく、歪みもなく、腐ることもない木が、切り倒されて、素晴らしい木材となるように、詰まった「年輪」を重ねた人は、この世を去ったとしても、神の国を作り上げる大切な存在として、神ご自身によって使われることになる……。花びらが吹雪のように舞い散る桜並木を車で走り抜けている時、「この木は五十年くらいかな」と、良い木を探して北米を回っていた日々を懐かしむように、上高地の雪原に立つ針葉樹の幹を優しく叩く人の姿を思い出し、そのような事を考えていたのです。思います。引継ぎ事項として、「外国籍信徒・受洗・転入者の受け入れ体制の整備、ヤコブ祭等の行事の課題の整理、防災体制の整備」が挙がっています。今年度は大きな行事の予定もありません。ヤコブ祭については、地域ブロックを中心に少し時間をかけて考えてみては、と思いますし、その他の事についても、どうぞご意見をお寄せ下さい。さて、今号掲載の「実行体制」の原稿を整理しながら、大勢の方が委員や係として携

わり、信頼してお任せできる組織であることを実感しております。また、地域ブロックがブロックのそれぞれの実情を考えながら絆を強め、親睦が深まり、活動グループは諸活動を通して信仰を伝え、町田教会を活気づけています。これからもずっと、いきいきとした町田教会であって欲しいと思います。

私たちは、嬉しい気持ちだけでなく、行き場のない気持ち、さまざまな気持ちを抱えて教会に来て、ミサに与ります。教会を後にする時、ますます感謝に溢れ、慰められ、希望が確かになっていたら、それはミサと皆さまの笑顔の力ではないでしょうか。心静かにミサに与る環境を整えたいと思いますし、自然にお互いをいづくしむ町田教会でありますように。

ダイヤモンド祝を迎え、昨年のちょうど今頃、帰天なさった恩師。私が初めてお会いした時、力強くおっしゃった言葉は、「佳香、Always nearer to Christ! ですー!」でした。そして六十年間守り続けたことは、「ひたすら聞く」だったそうです。その恩師に倣って、皆さまと共にこの一年を過ごして参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

東日本大震災から五年

町田教会被災地支援センター
事務局 立木 欣吾

今年の三月で、東日本大震災から丸五年が経過しました。五年一区切りという見方があるのか、今年の春は昨年や一昨年に比べてメディアでの取り上げ方が多かったです。町田教会の被災地支援センターの事務局をさせていたでいて、そのためか、教会の信者の方から震災や被災地についてのご意見や感想なりを伺うことがあります。

震災が起きて二年ほど経過すると、「福島野菜は食べて大丈夫なの?」といった質問を受けることはなくなりました。一方、「東北の被災地はもう復興しているでしょ?」とか「被災地支援はもうやらなくてもいいのでは?」と言われることが増えてきました。

たしかに東北の被災地は復興しつつありますが、避難者は震災発生直後の47万人から減ってはいるものの、今も17万4千人に上ります。恒久的な住まいの一つである災害公営住宅の完成はまだ半分に留まっています。

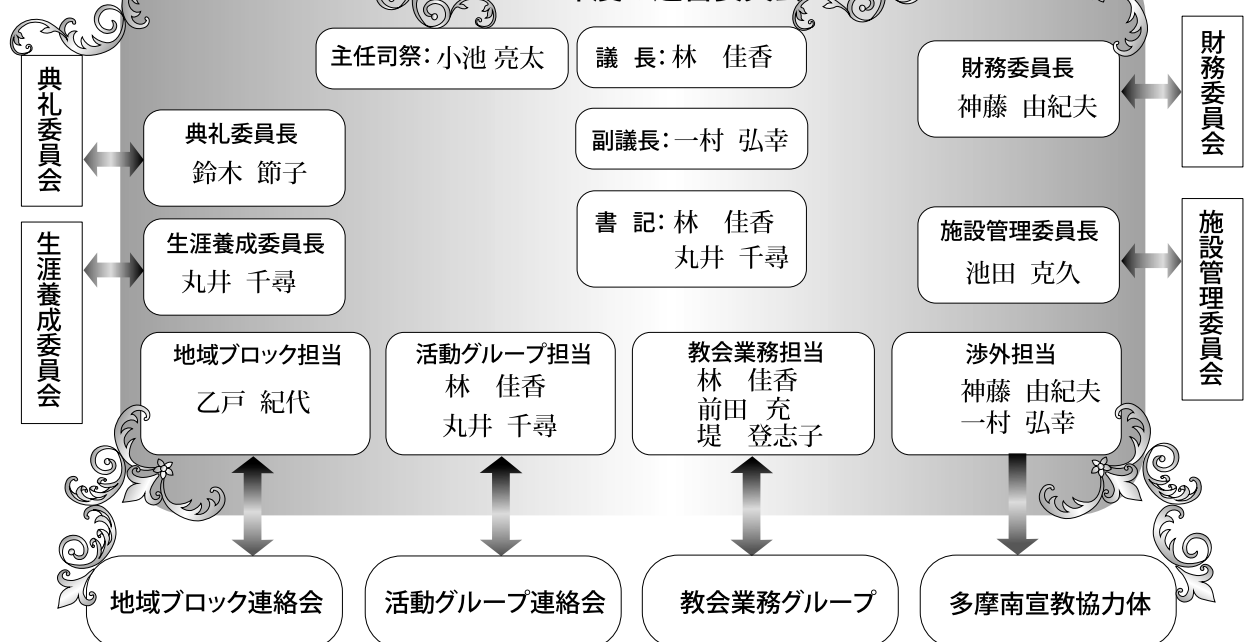
特に原発事故のあった福島県の復興は遅れており、手つかずの地域もあります。時間の経過とともに、被災地の情報の提供が少なくなり、

本年度の 運営委員の みなさん



被災地とそれ以外の方の意識格差が出てくるのはやむを得ない面があります。しかし、首都圏やそれ以外の地域でも、今後大きな災害があるとも限らず、誰がいつ被災者となってしまうとも限りません。痛みや苦しさを長い間にわたって背負って生きている人たちに心を寄せることや、被災地が発信する情報を受け止めて返していくことが、まだまだ必要だと思われれます。被災地の復興は道半ばです。今後も被災地への支援・ご協力をお願い申し上げます。

2016年度の運営委員会



2016年

カトリック町田教会 実行体制 (I)

典礼委員会 (典礼委員長 兼 運営委員: 鈴木節子)

係	連絡担当
聖歌奉仕グループ	鈴木 節子・遠田 富与子
朗読手配	赤瀬 亮一・佐藤 昭子
奉 納	佐藤 昭子
典礼の花	高尾 敬子
香 部 屋	畠中 都
ミサ進行係	伊藤 宏・小林 彰・山口 良樹
聖体奉仕者	島田 和人

※冠婚葬祭の連絡係 結婚式担当: 高尾 敬子
葬儀担当: 白井 みさ

財務委員会 (財務委員長 兼 運営委員: 神藤由紀夫)

係	業務内容	担当
財源の確保	財政の管理	神藤 由紀夫
収入管理	郵便	林 茂
	銀行	小池 神父
	現金	定光 孝子
支出管理	現金出納(支払)	田澤 三郎
	郵便振込	神藤 由紀夫
	銀行振込	坂井 剛
資産管理	資産台帳管理等 (リース含む)	神藤 由紀夫
データ管理	会計・決算データ管理	田澤 三郎 奥村 耕平

施設管理委員会 (施設管理委員長 兼 運営委員: 池田 克久)

係	業務内容	責任者	委 員
施設管理	中長期大規模改修及び修繕 小規模改修及び修繕・定期修繕 教会建設～建設後の教会施設・ 植栽の維持管理及びメンテナンス	池田 克久	荻津 兆秀・松村 潔・鈴野 将 大木 雅信・小池 神父

生涯養成委員会 (生涯養成委員長 兼 運営委員: 丸井 千尋)

係	業務内容	責任者	委 員
生涯養成	信徒の育成・信仰の理解 霊性を養う	丸井 千尋	岡野 道子・寺澤 圭子・林 佳香 廣田 和之・藤波 由香・渕 敦子 堀口 大輔・水野 貴久子
教会学校	土曜学校	吉田 光子 嶋田 弘志	保護者をはじめとする皆さんで構成
	日曜学校	三須 真理 坪山 明美 原 祥代	
	中高生会	島田 和人	
	たまごの会(未就学児のお話会)	小林 由里子	青木 重子・佐藤 千代子・佐藤 玲子 皇 恭子

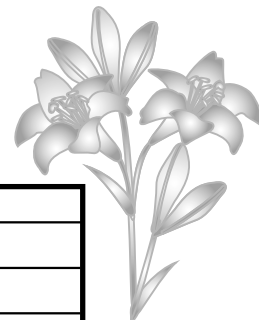
共同墓地委員会 (共同墓地委員長: 小溝 茂雄)

委 員	神藤 由紀夫・鈴木 節子・安藤 康弘・池田幸織
-----	-------------------------

地域ブロック (議長: 渡邊 礼子 / 運営委員: 乙戸 紀代)

ブロック	連絡員	ブロック	連絡員
第1	北爪 敦子・圓島 久美子	第6-1	湊 豊子・山中 淳子
第2	武井 陽子・山口 和子	第6-2	高橋 浩・丸井 千尋
第3	秦 ゆうこ・吉永 昌子	第7	伊藤 真理・橋村 元雄
第4	武岡 憲子・渡邊 礼子	第8	国友 正子・水本 久子
第5	小酒 由紀子・前田 千栄子	第9	名倉 理恵・原 祥代

活動グループ (世話人: 原 久子・仁藤 芳栄 / 運営委員: 林 佳香・丸井 千尋)



2016 年

カトリック町田教会 実行体制 (Ⅱ)

教会業務担当 (運営委員: 林 佳香・前田 充・堤 登志子)

係	連絡担当	構成員
案 内	田澤 三郎	山口 広文・新納 春雄・立木 欣吾・赤瀬 亮一 大木 雅信・幾永 弘・瀧口 裕行・定光 善吾 安藤 康弘・荻津 兆秀・奥村 耕平・橋村 元雄 伊藤 時光・鈴木 亮作・小溝 茂雄・遠田 治正 中 永一
ミサ案内	神谷 富雄	松本 亮英・佐藤 千代子・佐藤 和子・水野貴久子
日曜日受付 (転出入)	山口 静子	定光 孝子・田村 ゆり子・蛭町 真理・舟ヶ崎 美英子 坂井 美鈴・小林 由里子・佐藤 千代子
平日受付	水野 貴久子	池田 幸織・仁藤 芳栄・三上 昌子・水野 雄一 横塚 千枝子・横山 真弓・佐藤 由紀子・田中 力 大迫 祥子・大久保 珠美
土曜日受付	山口 静子	木村 洋子・坂井 剛・坂井 美鈴・鹿内 容子 高尾 敬子・林 佳香
名 簿 (教会原簿・管財)	橋村 元雄 (小池 神父)	山田 恒雄(ツト開発)・富樫 和美
雷の子	中原 毅志	池永 廣美・小林 洋子・遠山 悦子 堤 貞夫・大久保 豊
ウェブサイト	小池 神父	丸井 千尋
週 報	高尾 敬子	坂井 剛・林 佳香・丸井 千尋・笠原 恵
月 報	佐藤 玲子	
図 書	横塚 千枝子	宇治 淳子・横山 浩美・井上 淑子 高橋 檀・石井 節子・三上 昌子
聖品 販売	守田 紀美江	小池 裕子・舟ヶ崎 美英子・鈴木 節子 橋本 愛子・小林 洋子・秦 ゆう子・池永 廣美

各種対外活動担当 (運営委員: 神藤 由紀夫・一村 弘幸)

担当	業務	業務内容	担 当	担当メンバー
渉 外	教区関係	教区宣教司牧評議会	(成城教会)	多摩南宣教協力体(成城・町田)の 信徒より選出
		一粒会	廣田 和之	
	宣教協力体 関 係	多摩南宣教協力体連絡会	神藤 由紀夫 一村 弘幸	
	その他	施設利用外部団体	小池 神父	
		その他		

町田教会被災地支援センター(センター長: 小池 神父)

業務内容	事務局長	参加メンバー
国内外の災害救済のために必要な援助活動	立木 欣吾	その都度

バリスノモ・ドンドン・ヴォルテイル

参加者は18名で、日本人1人以外は、みんなフィリピン人でした。他の国籍の参加者も予定されていましたが、当日予期しない事情で来られなくなりしました。

一番印象に残ったのは神父様が掲げられた、四旬節に相応しい「STOP」という四つの頭文字でした。このとても覚えやすい頭文字の意味を説明します。これさえ実行できれば、復活祭をきれいな心で迎えることができます。

Sは沈黙 (Silence) という意味で、大忙しい現代人の私達が一年を振り返るために心を静め、雑音のない静かな場所に行かなければなりません。

Tは感謝 (Thank) という

○は心を開く (Open) という意味で、神様が私達の心に入り込めるために私達の心を私達自身が開けなければなりません。神様は私達の中に常に入ろうとしています。信仰の事を忘れたがちな現代人の私達は普段心が閉ざされています。心を開けるといいうのは自分の弱さ、自分の自己中心なところを認めることで、聖霊が宿れる場所を私達の心の中で準備することができます。

この黙想会に参加したおかげで、聖週間のための準備が出来、大変助かりました。主催された生涯養成委員会に感謝したいと思います。

Fr.後藤文雄：ボランティアでカンボジア奥地に小学校建設（14年までに18校）・14人のカンボジア難民の子を里子に・『よし！学校を作ろう 神父ゴッちゃんの履歴書』講談社、印税一部建設資金に

2016年度 町田教会の主な年間行事予定



- 1月1日(金) 新年のミサ
 1月10日(日) 成人の祝い・新年会
 2月14日(日) 四旬節黙想会
 2月20日(土) 外国語による黙想会
 2月21日(日) 信者総会
 2月28日(日) 講演会
 3月24日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
 3月25日(金) 聖金曜日(主の受難)
 3月26日(土) 復活徹夜祭
 3月27日(日) 復活の主日・お祝い
 5月29日(日) 初聖体
 7月29日~30日(金・土) 教会学校夏期キャンプ(予定)
 8月15日(月) 聖母被昇天のミサ
 9月4日(日) 避難訓練
 10月30日(日) 長寿感謝のミサ
 11月6日(日) 町田教会合同追悼ミサ
 11月13日(日) 七五三祝福式/宣教協力体合同墓参
 11月20日(日) 待降節黙想会
 12月24日(土) 主の降誕・夜半のミサ
 12月25日(日) 主の降誕・日中のミサ

編集部より

☆「世界広報の日」に雷の子

311号をお届けします。

☆本年度の運営委員の集合写真に、一村弘幸さんが入っております。紹介できればと考えています。

☆次号の編集会議予定

2016年6月19日09時30分

犠牲献金

	中高生会
12月20日	15,274円
	(ペロニカ苑へ)
1月17日	8,640円
	(ペロニカ苑へ)
2月21日	8,012円
	(ペロニカ苑へ)
3月13日	8,240円
	(ペロニカ苑へ)

特別
寄稿

創造の美しさ

皆様、ご復活おめでとうございます。
 復活節は春の到来を告げ、そして夏への入り口ともなっています。

この季節はいのちが輝きはじめ、いのちの美しさを感じるときでもあります。色とりどりの花から、緑あふれる葉のざわめき。特に、満開の桜に創造の美しさを感じることでしょう。その美しさは私たちの心を浮き立たせ、人々が集います。

美しさのあるところに人々は集います。それは喜びに満ちたものです。桜だけでなく、さまざまな自然の美しさは私たちの心を動かします。

この世界は、私たち人間も含めて、神の創造のわざとして特別な美しさを輝き出しています。その美しさはそのものの自体の美

フランススコ会 伊能 哲大 神父
いよく あきひろ

しさです。桜の花は桜の花自体の美しさです。創造されたままの美しさにほかなりません。自然はそのままの創造の美しさを表現しています。

教皇フランシスコが『ラウダート・シ』で私たちに呼びかけているのは、一つにはこの創造の美しさを感じる心でしょう。私たちが自然に手を加えると美しさが損なわれてしまうことの方が多いでしょう。私たちがまた来年も桜の花の美しさを愛でるためには、何をして、何をしてはならないのでしょうか。創造の美しさを守るために私たちは神の似姿として、何をしなければなりません。今、私たちに問われています。そして、また行動を促されています。ことを忘れてはならないでしょう。

信 者 動 静

2016年1月~3月

(個人情報のため、削除しています)